



草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る 本邦 NGO によるフォローアップ事業報告書



対象国：ウズベキスタン共和国

2015.05.21



本調査の概要

日程 : 2014年11月4日(火)～12日(水)

調査目的:

- 供与機材の使用状況及び管理状況
- 支援事業の広報
- 支援事業の成果と課題

調査対象: 医療保健分野4件と教育研究分野7件の合計11件

調査手法:

- 関係資料のレビュー
- 日本国内における関係者に対して、メール等での聞き取り
- 11案件の調査訪問
- ウズベキスタン国内の事業のステークホルダーへの聞き取り

調査実施者(敬称略)

	氏名	所属・役職
同行者	鈴木 宏典	外務省 国際協力局 開発協力総括課 課長補佐
	水野 裕子	外務省 国際協力局 開発協力総括課 経済協力専門員
調査実施者	紺野 誠二	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ ジャパン 海外事業部 プログラム・オフィサー
	藤田 真人	同上
通訳	ディルムロッド・ユ スポフ	在ウズベキスタン日本国大使館草の根・ 人間の安全保障無償資金協力コーデ ィネーター

平成23年度 血液学研究所付属病院機材整備計画



平成23年度 ブハラ州精神・神経症小児リハビリセンター—機材整備計画



平成23年度 フェルガナ州フェルガナ市第9学校機材整備計画



平成21年度 アンディジャン州アンディジャン市第37学校機材整備計画



フォローアップの結果

- 確認した範囲では供与機材はほぼ適切に使用、維持、管理されている。但し、一部の機材では使用しにくい状況にある。
- 被供与団体は事業期間、事業費を遵守したうえで事業を実施、完了報告書(会計報告書を除く)も提出している。
- 在ウズベク大は事前調査やフォローアップ調査などを丁寧に実施している。
- 地元メディアを中心に広報を行っている他、サインボードの設置等も積極的に行われている。

ウズベキスタンにおける草の根無償の課題

1. ウズベキスタンにおける草の根無償自体の認知度
 - そもそもスキームの存在自体を知らないことがある。また、申請団体は比較的大都市に位置する団体に限られている。
2. ”申請書の作成”に関するスキル・経験不足
 - 多くの団体が開発・援助機関への申請書を作成した経験がなく、”申請書作成”が大きな壁となっている。
3. NGOの活動制限とソフト・コンポーネント
 - 今回、採択された団体は、すべてハードのみの事業である。また、申請団体においてソフト・コンポーネントでの事業が検討されていない。

提言

(1) 在ウズベク大への提言

- 草の根無償に関する広報を強化すること。
- 申請を希望する団体や優良と思われる団体とのコンサルテーションを推進すること。
- 草の根無償のガイドラインを柔軟に運用し、対象に応じた支援を行うこと。
- 審査プロセスに関して、申請団体と情報の共有を図ること。
- ソフト・コンポーネントを入れる方向性へのシフトを考慮すること。
- ウズベキスタン国内で支援の行き届いていない地域や分野への配慮を行うこと。

提言

(2) 外務本省への提言

- 本フォローアップ事業の成果を活用して、適切に草の根無償を行っている国家への草の根無償スキームへの資金の割り当てを強めていくこと。
- 専門性を持つ人員の配置をしたり、専門分野の団体との連携を深めていくこと。

(3) 外務本省及びNGO側のとりまとめ団体であるJANICへの提言

- 本フォローアップ事業のフォーマットを整理すること。



ありがとうございました。

